

令和6年度 第1回滋賀県原子力防災専門会議
会議要旨

1. 日 時：令和6年11月21日（木） 13：00～14：07
2. 場 所：滋賀県危機管理センター2階 災害対策本部室（Web会議併用）
3. 出席者：大野 和子委員、北田 孝典委員、牧 紀男委員、三澤 毅委員、
八木 絵香委員、安田 仲宏委員、山下 晏叶子委員
4. 議事および内容
 - (1) 座長等の選出について
(座長に牧委員、座長の職務代理者に三澤委員を選出)
 - (2) 滋賀県地域防災計画（原子力災害対策編）の修正について
(説明者：事務局 ※資料1-1、1-2を用いて説明)
 - (3) 令和6年度 滋賀県原子力防災訓練の結果について
(説明者：事務局 ※資料2-1、2-2、2-3を用いて説明)
5. 質疑応答、コメント
 - 議事（2）について
(北田委員) 甲状腺被ばく線量モニタリングの実施体制の整備について、今年度は検討、将来的には体制整備で良いか。
(事務局) 原子力災害医療協力機関と連携すべき中で、役割分担がまだ明確に定められていない。今後、調整を進める中で体制を整備していく考えなので、検討からという記述にしている。
(八木委員) 自然災害時と原子力災害時では避難所でのペットの扱いや留意点が若干違う。地震の場合は、自宅に帰って食事を与えることも考えられるが、原子力災害の場合はどうか。
(事務局) 原子力災害の場合、連れていくことに困難を伴うので、置いてくることも選択肢になりうると考える。その場合、食事等は、関係団体と協力していくことが一案。
(八木委員) 資料1-2 P9について、ジェンダーアイデンティティと家庭動物を並列にしていることに違和感を覚えた。文章を区切る等すべき。
(事務局) 検討する。
(三澤委員) ペットの除染について検討しているか。
(事務局) 汚染検査はゲートモニタ等で実施できると考えているが、除染は困難が伴

うと考えている。国にノウハウの提供を求めているが、答えが示されていない。

(三澤委員) ゲートモニタは、基本的に人の大きさに対して設計していると思うので、ペットが単体で入る検査には、適切ではないのかもしれない。GM(管式サーバイメータ)等では、時間がかかるので、そういうことも含めて国に相談いただけたらと思う。

○議事(3)について

(安田委員) 災害対策本部事務局運営訓練について見学した。ブラインド訓練だった為、想定してないことが起こった場合に、対策本部の中で災害が起きているかのような感じになるわけだが、プレイヤーがオンタイムに解決できなかった事項があったと思うので、そこに対してどうあるべきだったか振り返りを行い、次に繋げていくと良い。

(三澤委員) 住民避難訓練を見学した。その中で防災の講習会を行ったが、これからも定期的に行わなければいけない。

スクリーニング会場について、準備状況、例えば服装、汚染防止の養生、ホワイトボードの準備等はよく行われていた。

人の導線の案内、例えば床面の矢印等が、もう少しオーバー気味にあってもいい。

住民のスクリーニングについて、もう少しスムーズにできるように人を配置するべき。住民にとって一番大事な箇所なので1人の測定が終わったら、次の住民がすぐ入れるよう配置を検討されてはどうか。

車の除染は十分な人員体制が取れていたと思う。車はかなり頻繁に来ることも想定されるので、臨機応変に人手が不足したら派遣するといった人員の準備というのにも必要。

発電所の状態等全体に共有すべきアナウンスが聞こえにくかった。

(大野委員) 2年ほど前に参加したが、本日の報告を聞いて、かなり改善されている印象を受けた。

数十人の多くの住民が来たときの対応について、実際には、人を増やすことは災害のときには難しいと思うので、混乱がないか等をその場をまとめる役の配置。また、住民の不満が出ないように対応係の配置を検討できれば良い。

(北田委員) 今回の事務局運営訓練、本部員会議運営訓練では複合災害を想定した訓練となっているのか。

(事務局) それぞれ同じシナリオを想定して実施しており、全て複合災害を想定した訓練となっている。

- (北田委員) 避難中継所について、開設計画や、住民の導線は決まっているのか。
- (事務局) 滋賀県広域避難計画で、避難中継所設置場所の優先順位等を定めている。
- (北田委員) 車両のゲートモニタについて、他府県の訓練に参加した時は、寝かせて運用していたと思うが、今回立たせている理由は。
- (事務局) 国内で利用されてるゲートモニタにはメーカーが二つあり、それぞれでタイプが異なっている。我々は、汚染しやすい箇所が、タイヤとワイパーであると認識しており、ワイパーの汚染を確認するためには、立てる方が有効である。また、メーカーからは倒しての使用は推奨されていない。
- (八木委員) 今回の住民避難訓練の対象地域に住む障害者の人数を把握しているのか。その方達に対して情報提供の方法は定めているのか
- (事務局) 今回の訓練対象地域で、障害のある方が何人いるか把握せずに訓練を行った。今後の訓練では市と調整して検討したい。過去には、聴覚障害がある人が参加して行ったこともある。
- (山下委員) 地域福祉の業界では、まだまだ原子力災害の避難計画等が浸透していないのが現状。勉強する機会をいただけるとありがたい。
- (北田委員) 外国の方が避難されることについて、想定されていることは。
- (事務局) 外国の観光客は、観光の関係団体と連携していく。お住まいになられてる外国の方は、ネットワークが強いと認識しており、国際協会と連携して情報を伝える。
- (北田委員) 避難中継所でパネルでの伝え方やタブレットを利用した方法等、コミュニケーションが難しい方へ、情報が正しく伝わるような情報提供の方法も検討してみてはどうか。
- (事務局) 避難中継所では、立て看板に英語表記を取入れ、国が作成したピクトグラムを使用して取り組んでいるところ。
- (牧委員) 資料 2-2 の事務局運営訓練について、原子力災害でも避難指示を出し、警戒区域を設定するのは市町だが、事務局運営の事務局側には高島市は来ないと思われる。市町は県と違い、人数も少ないし専門家の数も少ないと思われるので、市町の方にも手順を忘れないように理解してもらうことが大切。
- (事務局) 今年の訓練ではおっしゃるとおり、県職員を中心に行ったので高島市と一緒にということはなかった。本部員会議ではこの実動訓練の中で手順を確認するということにとどまったところ。ただ、そのような訓練も必要と認識している。昨年度は実動訓練の代わりに高島市と一緒に訓練しており、周期的にはきちんとやるべきと考えている。